

## 地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室（電話-0298-54-3605）で閲覧できます。

### 地質調査所研究資料集 No.159

柳沢文孝（1991）

水-岩石相互作用に関する研究. 334p., 28fig., 33tab.

#### 内容紹介

本報告は、筆者が昭和61年12月1日-同62年3月31日の期間、地質調査所鉱床部（当時）臨時研究員として行った研究と、それに付随する研究のまとめである。なお、この研究は原子力特研「高レベル放射性廃棄物の深層隔離に関する地質学的研究」の一部をなすものである。報告は、高レベル放射性廃棄物ガラス固化体と地下水の反応を前提としたガラスの化学的耐久性に関する研究のレビューと、筆者自身による、熱水条件下における流紋岩ガラス・玄武岩ガラス・アルカリホウケイ酸ガラスと地下水・海水との反応の実験的研究とからなっている。ガラスの水熱実験では、反応の進行過程における水溶液の化学組成の変化と、ガラス表面の反応生成物のXRD, EPMA, SEMによる解析を行った。反応生成物のmineralogyは、系の水/岩石比によって左右され、表面積の大きい粉末試料と、表面積の小さい塊状試料では結果が異なっている。アルカリホウケイ酸ガラスの浸出挙動は、玄武岩ガラスより流紋岩ガラスに類似する。

### 地質調査所研究資料集 No.160

安藤直行（1991）

インドネシア・ガルングン火山の1982年噴火. 30p., 12fig., 4tab., 13pl.

#### 内容紹介

1982年4月5日未明、インドネシア・ジャワ島西部にあるガルングン火山が、60年余の静隠を破って突如噴火を始めた。間断なく活動を続けている火山、数年の休止期間で噴火を繰り返す火山が他に多くあるので、ガルングン火山に対してはその活動の監視体制が組まれておらず、いわば不意を突かれたと言える。その割には死者が58名と少なかったが、農地・水理・家屋・交通等に対する被害は、直接のものだけで邦貨換算200億円と見積られた。噴火が丁度乾期の始めに当たっていて、雨量が殆んどゼロであったので、雨期に入ってから二次火山泥流による被害が大いに怖れられた。日本に余り名の知られていない同火山の紹介を兼ねて、その噴火の状況と、活動の特性、災害対策の概要を報告する。

### 地質調査所研究資料集 No.161

佐藤良昭・鈴木泰輔（1991）

重鉱物分析の手引. 8p., 6fig., 7tab., 43pl.

#### 内容紹介

重鉱物の分析の際に必要な知識を集成した。すなわち、試料の粉碎から重鉱物の分離、プレパラートの作成に至るまでの手順を詳しく解説し、日本の砂岩にみられる全ての重鉱物に一部外国産も交えた43種の鉱物学的な記載と、偏光顕微鏡下での特色を網羅し、鏡下での鉱物種の鑑定上のポイントを記述した。また、参考となる図表を添付するとともに、全ての鉱物にわたる多数の顕微鏡写真（カラー）を掲げて、利用者の利便に供した。